

これまででも、これからも。武雄を支える「農業」を語る。

議長…明けておめでとう、ございます。今年の新春対談のテーマは、武雄の主要産業である農業について、農業を語るには右に出るものがない、山口さんにお話を伺います。先月行われた『お米日本一コンテストin静岡』で「橘産さがびより」が、全国580点の出品中、上位30位に贈られる金賞を受賞したという明るい話題もありましたが、山口さんは武雄の農業の主力品目についてどうお考えですか？

山口…武雄では多くの農畜産物が生産されていますが、橘町地域はやはり米だと思えます。特にコンテストで金賞を受賞した「橘産さがびより」ですが、この地区の稲作は弥生時代から行われていた痕跡があり、2000年ほどの歴史を持つ産業です。近年佐賀県では温暖化傾向にある環境に合わせて、高温障害に強いさがびよりを開発。橘町地域は平成21年よりいち早く開発に取り組み、その努力が実って平成26年度産に続き、今回の金賞受賞にも繋がったと感じています。



議長…「橘産さがびより」は米の食味ランキングで8年連続特A評価を受けているだけでなく、JR九州クルーズトレイン「なつ星in九州」の車内食にも提供されているそうですね。ここまで高評価を受けるまでにどのような取り組みをされたのでしょうか？

「橘産さがびより」のブランド化

山口…まずは橘町生産者代表とJA、市農林課、佐賀県農業改良普及センターなどをメンバーとする橘米どころプロジェクト会を立ち上げ、田植え期の設定や穂肥診断会の実施等を行い、生産指導を強化しました。また、たんぱく含有量佐賀県基準6.8%以下の選りすぐり米や、通常より粒の大きい極上さがびよりの生産という「橘産さがびより」のブランド化にも注力しました。その結果、平成29年1月よりなつ星のレストランの高級食材として選ばれるほど高評価をいただいています。



新規就農者を増やすために

議長…多くの農業関係者のご尽力あってこそブランド化に成功されていると感じますが、近年農業者の高齢化や若手の農業離れが全国的にも課題となっています。農業を始めるきっかけづくりとして取り組まれていることはありますか？

山口…就農への動機づけとして、一つはJA一体となって平成28年度より第4次農業振興3カ年運動を展開し自己改革を行っています。農業生産拡大、農業者の所得増大、地域活性化を3本柱として、農業を担う方への支援を行っています。例えば肥料や農薬の値下げ、農業機械の購入助成、施設の改修経費の一部助成など農業に取り組みやしやすい環境づくりを実施しています。

議長…農業者にとっては有難い取り組みで、今後もご尽力に期待しています。最近ではハウスきゅうり栽培のトレーニングファームについても注目が集まっているようですね。



山口…そうですね。きゅうりトレーニングファーム事業として平成28年から、行政・JA・地元きゅうり部会が一体となって意欲ある就農希望者を募集し、技術の習得から独立就農まで2年かけて研修を行っており、新規就農者が増えるきっかけとなっています。武雄では今年6月に第一期生がトレーニングを終えますが、今後は卒業後の生産販売の指導体制をどう確立するかが課題ですね。

武雄の農業の未来

議長…就農者を増やす以外にも耕作放棄地を減らすことや、耕作道や水路の整備等も必要になってくるでしょう。山口さんは今後の農業の展望についてどうお考えですか？

山口…食料を巡る国際情勢として安価な農畜産物の輸入量が増加していく傾向にある一方で、国内の農業生産は減少していくと考えられます。国内外に課題を抱える今、私は農業を支える人や組織づくりが最も重要と考えます。そこで集落営農の法人化や大規模認定農業者の育成とあわせて、労働力の確保が最大の課題と考えています。また高齢農業者を含めた農業者が自ら製造・加工・販売までを手掛ける6次産業化への取り組みのモデル地区を多種多様な組織の方々で検討し、実行することが、市長が呼びかけておられる、日本一就農しやすいまちづくりに結び付くと思っています。

議長…「それ、武雄の農業から始めます。」ですね。2019年も武雄の農業者にとって素晴らしい1年となるよう、今後とも協力していきたいですね。



佐賀県農業協同組合 (JAさが)武雄地区理事代表 橘町地域営農推進協議会会長 山口 和己



武雄市議会議長 杉原 豊喜